



平成29年度 修学生の集い開催報告

茨城県では、昨年12月29日に6回目となる「修学生の集い」をホテルレイクビュー水戸で開催し、過去最高となる233名(医学生：152名、医師等：81名)の皆様に参加をいただきました。

今回の集いは、3つの構成で実施し、1つ目は修学生医師及び自治医科大学卒業医師(35名)による症例発表会を行いました。参加者からは「初めて症例発表会に参加して、いろいろな話を聞くことができとても勉強になった(医学生)」、「他分野の症例を見せていただくので、刺激になりました(医師)」などの意見をいただきました。

2つ目は学生企画として、医師や学生による講演を行いました。これは、昨年度実施した結果、「低学年の医学生にとっては、症例発表は難しいのでは」との意見があったことから、筑波大学の地域枠の学生が主体となり、今回初めて実施したものです。参加者からは「昨年は症例発表に出席したが、低学年だったせいか難しかったので、学生企画はとても興味が持てた(医学生)」、「下級生も有意義な時間を過ごせるような企画で良かった。上級生でも楽しめた(医学生)」などの意見をいただきました。

最後に交流会を行い、県内医療機関の病院長、指導医、地域医療支援センターキャリアコーディネーター、教育インストラクター、アドバイザー、キャリア相談員、地域枠大学協力員、医学生と幅広い年代の方に参加をいただきました。参加者からは「他の学年・学校の修学生と交流を持てた(医学生)」、「このような機会であれば、交流することのできない方々とお話できた(医学生)」などの意見をいただきました。

今後も年に一度開催してまいりますので、ぜひご参加ください。



症例発表

プログラム

- **症例発表会** ※2会場で同時進行
 - ・修学生医師及び自治医科大学卒業医師(35名)による症例発表

- **学生企画**
 - ・ワーク・ライフ・バランスに関する講演会(医師による講演)
 - 講師:児玉 祐希子 先生(総合病院水戸協同病院)
 - 講師:奥脇 駿 先生(総合病院水戸協同病院)
 - ・臨床的視点から見た医学の勉強法(学生による講演)
 - 講師:海老原 賢治 氏(筑波大学4年生)

- **交流会**
 - ・開会挨拶(木庭保健福祉部長)
 - ・表彰及び講演
 - ・懇談



学生企画



交流会

症例発表会(※順不同)

テーマ	発表者
身体症状症に対し、mECTで治療した二例	(株)日立製作所日立総合病院 藤田 彩夏
ミトコンドリア病(MT3243難聴)に合併した糖尿病の一例	茨城県立中央病院 山本翔太郎
Nivolumab投与6ヶ月後に急性発症1型糖尿病を発症した非小細胞肺癌患者の一例	水戸協同病院 中島里佳子
BMI8台で推移している重症遷延性神経性食思不振症の一例	(株)日立製作所ひたちなか総合病院 齋藤 伸明
階段からの転落で救急要請されたレジオネラ肺炎の一例	水戸済生会総合病院 柳橋 亮太
BLNARIにより重症肺炎をきたした乳児の一例	(株)日立製作所日立総合病院 本木麻衣子
とある研修医の救急外来反省症例	茨城県立中央病院 森中 哲
当院におけるマムシ咬傷症例の検討	常陸大宮済生会病院 山崎 浩宣
初期のMRIが正常ながら重篤な経過を辿った急性小脳炎の一例	茨城大学子ども病院 池邊 浩士
大量咯血をきたしたMarfan症候群の一例	茨城県東病院 藪内 悠貴
内科的加療中に再解離した大動脈解離の一例	茨城県立中央病院 西岡龍太郎
血小板減少症、腹水、急性腎不全、全身性リンパ節腫大を呈した一例	水戸協同病院 本多 智康
溶連菌感染後急性糸球体腎炎により急性腎不全をきたし長期透析を要した一例	筑波大学附属病院 佐藤 瑠美
胃GISTに対し腹腔鏡内視鏡共同手術(LECS)を行った一例	北茨城市民病院 鈴木 秀平
cT3N2M0進行食道癌に対して同時化学陽子線治療を行った一例	茨城県立中央病院 廣嶋 悠一
放射線治療後・ヘビシズマブ治療後に膀胱腫瘍、直腸腫瘍をきたした子宮頸癌III B期再発の一例	筑波大学附属病院 渡邊久美子
Meckel憩室内翻により生じた腸重積の一例	水戸済生会総合病院 貝塚 博行
神栖市における体幹部銃創で救命した一例	千葉北総病院 小田 有哉
透析を要した溶血性尿毒症症候群の一症例	茨城県立中央病院 神徳穂乃香
問診の重要性を再確認した破傷風の一例	(株)日立製作所ひたちなか総合病院 長友 一樹
CO中毒により心筋障害を生じた一例	水戸医療センター 矢板 未佳
進行胃がんを合併した原発性硬化性胆管炎の一例	茨城県立中央病院 福田 智史
心タンポナーデを来し化学療法で救命し得た高齢心臓原発B細胞リンパ腫の一例	水戸医療センター 中島 俊
二度の肺出血を乗り越えたDIC合併転移性前立腺癌の一例	水戸済生会総合病院 照屋 浩実
前下行枝近位部の狭窄に対し方向性冠動脈粥腫切除術(DCA)を施行した一例	北茨城市民病院 石橋 直樹
躁状態を呈したCharcot-Marie-Tooth病の一例	茨城県立こころの医療センター 日向 勝之
少量の黒色便で発症した大動脈十二指腸瘻の一例	(株)日立製作所日立総合病院 河村 彰久
亜急性に視力低下を来した一例	水戸協同病院 渡邊 亜美
巣状分節性糸球体硬化症治療中に、重症Guillain-Barré症候群を発症した一例	筑波大学附属病院 秋山 浩輝
walk inで受診し胸膜炎が疑われた一例	(株)日立製作所日立総合病院 佐藤 莉都
当院にて経験した腸腰筋腫瘍四例	常陸大宮済生会病院 安達 伸
茨城県県央・県北地域の呼吸障害による新生児搬送の現状と課題	茨城県立こども病院 貴達 俊徳
気管deep wedge resectionによる右肺全摘の一例	筑波大学附属病院 菅井 和人
膵臓癌術後にTrousseau症候群を発症し治療に難渋した一例	茨城県立中央病院 飯島 一飛
整形外科外来にて経験した一例	水戸医療センター 小林 賢司

「4月に開設される『地域医療センターかさま』に移転し、病気の治療・予防・健康づくりの取り組みが充実します」

地域に密着した医療を展開する笠間市立病院の山本由布先生に、笠間地区の医療の現状や総合診療医にならなりたいきさつ、新設される「地域医療センターかさま」について伺いました。

●訪問診療・訪問看護・リハビリにより、在宅生活支援の強化を目指しています。

…笠間市立病院で、どのような診療をされていますか？

笠間市立病院は30床の小さな病院で、現在は5人の医師が働いています。私は普段は家庭医として、病棟、外来診療に加え、訪問診療を行っています。その他にも、持ち回りで幼稚園や保育園、小学校の健診や、保健センターで病気に関する市民向けの講演なども行うこともあります。私は訪問と外来を半々ぐらいで担当して、その合間に病棟の患者さんの診療を行っているので、毎日結構バタバタしていますね。当院にはここ数年で訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ができ、看護、リハビリ、介護の面からも在宅支援の強化を進めてきました。訪問診療を利用されている患者さんの多くは高齢者で、様々な疾患を抱えながら暮らしています。医療の力だけで人びとの暮らしを支えるのは難しく、他の職種力を借りながら患者さんのサポートをさせて頂いています。地域での役割としては、近隣の総合病院から急性期の治療が終わった方を受け入れて、自宅に帰るためのリハビリをする受皿となったり、開業医の先生から入院の依頼を受けたりしています。

…笠間地域の医療の現状は？

急性期や専門的な治療が必要な患者さんは近隣の総合病院で対応していただいているので、救急車を呼んでもどこの病院も受けてくれないという事は少ないと思います。地域で開業している先生も比較的多い印象ですが、在宅医療を担う医療機関はとても少ないのが現状です。自宅に帰りたい、最期まで家で過ごしたい、などという希望をサポートするにはまだまだ足りていないと思います。

…医師になろうと思われたきっかけは、どのようなことからですか？

実は、最初は心理カウンセラーになりたいと思っていました。子どもの頃は体が弱く、しょっちゅう小児科を受診し、さらに親の後ろに隠れるような内気な性格でした。小学校も休みがちだった時があり、親が心配してカウンセリングに連れて行ったん

筑波大学
総合診療グループ
笠間市立病院医師
山本由布



です。そこで出会ったカウンセラーの先生がとても丁寧な話を聞いてくれて、自分の思いを上手く伝えられない子どもにも優しく接してくれる大人が素敵だなと思ったのがきっかけでした。その後人の心に興味を持つようになり、精神科医をめざして医学部を受験しました。いざ医学部に入ってみると、いつの間にか精神科への興味は徐々に薄れていったのですが、心や感情などへの興味はずっとありました。

…筑波大学総合診療グループに所属されたいきさつは？

医学生のとときに、新聞で家庭医というジャンルの医師がいる事を知りました。その後県内(福井)で家庭医をされていた先生が開いてくれた勉強会にたまたま参加したんです。そこで、病気を見ると教えられていた医師が、ちょっとした心配事や、その人の生活や、感情や、地域の事などもまとめて引き受けている姿をみて、こんな医師がいてもいいんだ、これが自分のやりたかったことに近いかもしれない、と感じました。そんな漠然とした思いを抱きながらも、初期研修は色々な経験がたくて神奈川にある大学病院を選択しました。でも、2年間の研修の中で、この科に行こう、この科に一生を捧げようと思うことができなかつたんです。それよりも、年齢や性別、病気の種類に限らず幅広く対応できるような力を身につけたいと思いました。元々人の近くにいて相談にのりたいというのが、医師を志したきっかけでしたから、それが、まさしく学生の頃にみた家庭医の姿だったんですね。そこから自分で家庭医の研修が出来る研修先を探し、筑波大学の総合診療グループにたどり着きました。茨城は縁もゆかりもない土地でしたが、見学に来て、内科の力を高めながら家庭医の研修が出来る場所だと感じました。

家庭医療・総合診療の道に進んで、今も悩むことだらけですが、後悔したことは一度もありません。県内の病院や診療所など様々な場で研修してきて、患者さんの生活に近い場に行けば行くほど、病気だけ診ていても問題解決に至らないことがあると

実感しました。私たちが病院で患者さんと接するのは、外来だと1カ月から2か月に1回、10分程度で、言ってしまうと99%が私たちの知らない時間です。患者さんにとっては病気というのはほんの一部で、その他に大切にしている物事を抱えながら、家族や地域など、様々な関係性の中で生きています。それらを考慮せずに病気だけ治そうと考えても、それはとても難しいことです。きっと患者さんからしてみれば当たり前のようなことでも、多くの医療者にとっては見えにくいことなのかもしれません。このような考え方が出来るようになっただけでも、この道を選んで良かったと思っています。

●研修医が地域に出て、様々な視点に気づく手伝いをしています。

…笠間地域医療教育ステーションでの指導医のお仕事についてはいかがですか？

当院が総合診療グループの研修施設になって、丸2年になりました。昨年度に来た初めての後期研修医は1年間を通してたくましく成長し、今はこの病院のスタッフとして働いてくれています。今年度は前半、後半に1人ずつ研修医を受け入れてもらっています。一緒に訪問診療に行ったり、外来診療の後にカルテを見てディスカッションをしたりして、出来るだけ自分で気づいていく事をサポートするようにしています。大病院とは違って、生活を見る視点や多職種との密な連携が必要になる場です。教科書では学びにくいこういった点をどのように教えるか、まだまだ慣れないですね。人によって興味のある分野や、学びのテンポやコミュニケーションスタイルが全く違うので、一緒に働いていても興味深いですし、私自身にもとても良い刺激になってます。

…4月に開設される「地域医療センターかさま」は、どのような施設ですか？

笠間市立病院は平成30年4月に移転し、保健センターと地域包括支援センターが同じ施設に入ります。今までも、保健センターとは市民向けの健康教室や乳幼児健診など、地域包括支援センターとは、患者さんに関する相談や、地域包括ケア会議でつながりはありました。しかし、3つの組織が関わりを持つということは今までありませんでした。せっかく同じ屋根の下に入るのだからと、今は互いに協力し、検討に検討を重ねた新プロジェクトが進行中です。病院の役割の1つは病気になった人を治療することなのですが、病気になる前に予防をしたり、病院に来ない人の相談にのったり、そういったことがよりやりやすくなるのではないかと感じています。

…ハワイでの指導医団国外派遣事業に参加された感想は？

昨年11月、茨城県が主催する指導医団国外派遣事業に応募し、10日間ハワイでアメリカの医療制度や教育体制、指導方法などに関する研修を行ってきました。

海外に旅行や学会以外で行くのは初めてで、もともとアメリカには漠然と先進的なイメージがあったため、始めはとても緊張しました。研修医の指導に関しては、人材と時間に恵まれていると感じました。印象的だったのは、ある病院の見学の際に指導医の先生が、「この病院は、レジデントが全員インフルエンザで倒れたとしても診療に支障がないようにできている」と言っていたことです。さらに、外来と病棟の診療が完全に切り離されているので、指導医も午前中の時間全てを研修医との患者さんに関するディスカッションに費やしていました。日本では研修医はマンパワーとして考えられている所が多いので、人材、時間に余裕があり安全な環境で教育が受けられるという事は素晴らしいと思いました。日本で同じような体制を作れば良いという訳でないとは思いますが、この研修を通して特に、時間をかけて研修医一人ひとりをよく見ること、丁寧にフィードバックをする事の大切さを理解することが出来たので、今後実践していければと思っています。

●できるだけ広い視野をもって、一つの物事にとらわれない見方をしてほしい。

…若手医師・医学生に向けてメッセージをお願いします。

まずは、できるだけ広い視野をもって、一つの物事にとらわれない見方をしてほしいと思います。私の専門は家庭医療・総合診療なので関わる疾患や人々は比較的多様ですが、それでも医師の世界はごく狭く、特殊な場所です。私は10年前、自分が今のような働き方をしているということは全く想像していませんでした。ちょっとした興味や人とのつながりが、今の自分を作ってきたのだと思います。世の中には面白いことをしている人がたくさんいます。医学生だから、医師だからと自分の道の一つに決めず、興味を持っていることはどんなことでも大切にしたいです。

最後に、人間らしい医師になってほしいと思います。人は誰しも、喜びや楽しみだけでなく、痛みや不安や迷いなどを抱えて生きています。私たちがそうです。しかし、自分が医師になりたくさんの患者さんを見てみると、そのような感情を忘れがちになってしまいます。これは私自身への戒めでもあります。人として当たり前の感情が分かる、医者である前に人であることを忘れないようにしたい、忘れないで欲しい、これが私から皆さんへの一番のメッセージです。

病院紹介コーナー 霞ヶ浦医療センター



独立行政法人
国立病院機構
(茨城県土浦市下高津2-7-14)

当院は、昭和16年霞ヶ浦海軍病院として創設されました。以来70年以上、地元住民から親しまれ地域医療を担ってまいりました。東京やつくば市にアクセスが良く、土浦駅の西方約1kmの高台に立地しています。医局の窓からは筑波山と霞ヶ浦を同時に眺めることができますし、木々が生い茂る広大な敷地内では診療の疲れを癒すことができます。

病床数は250床の中規模総合病院ですが、国立病院機構(全国142病院)のネットワークを活かし人材交流や臨床研究が行なわれています。また、平成24年から筑波大学の臨床教育センターとしても機能していますので、大学の図書館機能を使えますし、教員から学術的な指導を受けることもできます。一方



で、市中の二次医療病院なので、大学病院ではあまり見かけないコモンディーズを多く経験でき実力がつきます。さらに平成28年度から始まった地域包括ケア病棟では在宅医療や社会復帰のための退院支援なども学べます。

医師数約40数名のアットホームな環境は、指導医の目がゆき届き個性を伸ばせる環境と自負しています。学生および研修医の皆さん、ぜひ一度見学に来てください。

(土浦市地域臨床教育センター部長 福田 妙子)

研修医リレーエッセイ



水戸赤十字病院

初期臨床研修医 山路 晃啓

初めまして。水戸赤十字病院初期臨床研修医2年目の山路と申します。

そろそろ2年間の初期研修が終わろうとしております。今思うとこの2年間はあっという間に時間が過ぎたような気がします。

当院は研修医の数が少なく、同期は自分一人しかいない状況で、研修が始まった1年目の4月は不安しかありませんでした。

しかし、消化器を中心に指導医の先生方に熱く指導していただき、様々な症例・手技・手術など経験させていただきました。



時には救命処置などを自分一人でやらなければいけない時もあり、上級医だけに頼らずに自分自身で勉強しなければいけない必要性や度胸などもつきました。

振り返れば、一人の臨床医として少しは成長できたのではないかと思います。

皆さんもこれから初期臨床研修医となり各々活躍されると思いますが、今後も頑張ってください。また、当院に少しでも興味のある方は当院に見学に来てください。お待ちしております。

■県内臨床研修病院 病院見学対応状況

	医療機関名	見学時間	対象	宿泊	問い合わせ先
1	水戸赤十字病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 企画課 澤幡 T E L : 029-221-5177(内線3155) E-mail : kikaku@mito.jrc.or.jp
2	水戸協同病院	随時(平日)	全学年	お問い合わせ下さい	担当者: 秘書室医局秘書 福家 T E L : 029-231-2371 E-mail : residency@mitokyodo-hp.jp
3	水戸済生会総合病院	随時(平日)	全学年	院内施設に宿泊可能(無料)	担当者: 臨床研修センター 平根、廣木 T E L : 029-254-5151 E-mail : resident@mito-saisei.jp
4	独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター	随時(平日)	5~6年生	可能(無料) 院内施設に宿泊可能	担当者: 教育研修部 事務担当 T E L : 029-240-7711 E-mail : mmc.senmon@mn.hosp.go.jp
5	茨城県立中央病院	随時(平日)	全学年	院内宿泊施設利用可(応相談)	担当者: 臨床研修センター 村上、鶴井、田口 T E L : 0296-77-1121(内線5097) E-mail : kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp
6	株式会社日立製作所 日立総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 総務グループ 柴田 T E L : 0294-23-1111(内線6606) E-mail : saiyou.nichibyo.nx@hitachi.com
7	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院	随時(平日)	4~6年生	院内施設に宿泊可能 ※場合により近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 教育・研修センター 上村、渡辺、星野 T E L : 029-354-6841 E-mail : saiyou.nakabyo.op@hitachi.com
8	土浦協同病院	随時(平日)	全学年	研修医宿舎に宿泊可能(無料) ※事前申込み必要	担当者: 庶務課 中島、白田 T E L : 029-830-3711 E-mail : rinken@tkgh.jp
9	独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター	随時	全学年	可能※事前申し込み要(無料) 院内施設宿泊可能	担当者: 企画課庶務係長 T E L : 029-822-5050 E-mail : kasumisomyu@kasumi-hosp.jp
10	筑波記念病院	随時(平日)	全学年	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者: 臨床研修担当 古矢、木崎 T E L : 029-864-6860 E-mail : kizaki-m@tukuba-kinen.or.jp
11	筑波大学附属病院	随時(平日)	全学年	可能 学内宿泊施設等 料金: 2,600円~3,700円	担当者: 病院総務部総務課(総合臨床教育センター係) T E L : 029-853-3516、3523 E-mail : kensyu@un.tsukuba.ac.jp
12	筑波メディカルセンター病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 人事課 木村 T E L : 029-851-3511 E-mail : kensyu@tmch.or.jp
13	筑波学園病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 人事部 笹島 T E L : 029-836-1286(内線2341) E-mail : kei-kikaku@gakuen-hospital.or.jp
14	東京医科大学茨城医療センター	随時(平日)	全学年	研修医宿舎に宿泊可能 (無料・要確認)	担当者: 卒後臨床研修センター 事務局 T E L : 029-877-1161(代表) E-mail : ksotsugo@tokyo-med.ac.jp
15	牛久愛和総合病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 人事課 白澤、雨宮 T E L : 029-873-3111 F A X : 029-874-1031 E-mail : jinji@jojinkai.com
16	つくばセントラル病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 経営企画課 久松辰男 T E L : 029-872-1771 F A X : 029-874-4763 E-mail : tatsuo.hisamatsu@central.or.jp
17	JAとりで総合医療センター	随時(平日)	5~6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 庶務課 玉田、関川 T E L : 0297-74-5551 E-mail : toride@medical.email.ne.jp
18	総合守谷第一病院	随時(平日)	5~6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者: 佐川俊英 T E L : 0297-45-5370 E-mail : sagawa@moriya.daiichi.or.jp
19	友愛記念病院	随時(平日・土)	5~6年生	遠方者には宿泊先を提供	担当者: 労務・人事課 稲見、長谷部 T E L : 0280-97-3000 E-mail : yuui@yuui-hosp-jp.org
20	茨城西南医療センター病院	随時(平日)	全学年	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能(要確認)	担当者: 秘書室 小森谷または庶務課 佐藤 T E L : 0280-87-8111 E-mail : shomuka@seinan-mch.or.jp

茨城県からのお知らせ

修学生・修学生医師およびi-doctorご登録住所の確認について

いつも「いばらきの地域医療」をご愛読いただき誠にありがとうございます。

修学生・修学生医師および i-doctor ご登録で本誌郵送を希望されている方におかれましては、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら「茨城県地域医療支援センター」(下記)までぜひご連絡ください。新しい住所へお届けします。

なお、i-doctor ご登録情報の変更については、地域医療支援センターホームページ内の「i-doctor お申込受付」でも承っております。よろしくお願いたします。

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療人材課内)
TEL:029(301)3191

ホームページの
QRコードはこちら▶

